

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか							
a	◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	社会や組織の中にあっても、世界を見据えて自らの使命、役割を自覚し、他者との「連携・共生」をはかりつつも、「個」として光り輝く人材を育成するため、明治大学の各学部設置される共通科目（教育の情報化推進本部、日本語教育センター、資格課程委員会及び学部間共通外国語教育運営委員会のそれぞれが運営する授業科目を除く。）の授業計画を立案し、及びその円滑な運営を図る。 ① 理念・目的の明確化 「明治大学学部間共通科目運営委員会規程」において、本委員会の目的及び設置について明記している。 ② 実績や資源から見た理念・目的の適切性 本委員会ではこれまで、学部間共通総合講座、共通語学科目及び選択体育実技（以下、各科目群）について、授業計画の立案及びその運営を行ってきており、その実績に鑑み本委員会の理念・目的の適切性は確保されている。					
b	●当該付属機関・委員会の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	本委員会の中心的な検討対象である学部間共通総合講座は、この教育理念・目的に基づいたカリキュラムの編成をしており、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うことを主眼に置いている。このことは「学部間共通総合講座シラバス」の開設趣旨に記載している。					
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか							
a	●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	第1回目の委員会（2016年6月17日）において、理念・目的を確認している（審議事項2「2017年度学部間共通総合講座授業計画策定方針について」）。					

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「改善を要する点」に対する発展計画		
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述		中長期的対応 F列にあれば記述
（１）付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか							
a	①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	共通科目の授業計画の立案及び円滑な運営を行うため、以下のよう に、全学部から委員を選出するとともに、教務部委員会が必要と 認めた各科目群の科目を担当する専任教員を選出し、学部横断的な 組織として編成、運営している。 1) 教務部長 2) 教務部長が指名する副教務部長1名 3) 各学部の教授会から推薦された専任教員各1名 4) 教務部委員会が必要と認めた授業科目を担当する専任教員若干名					
（２）付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか							
a	●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	「明治大学学部間共通科目運営委員会規程」において理念・目的に 基づいた組織、権限、手続き等について規定しており、2016年度第 1回目の委員会（2016年6月17日）において、本委員会の委員構成 を確認している。しかし、改善すべき点は指摘されていない。					

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか							
	a	●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	明治大学が求める教員像及び教員組織の編制方針に基づき、学部間共通総合講座の講座担当者は、本学教職員に加え、当該分野において、特に優れた知識及び経験を有する学外からの専門家を講師として招聘し、複数の講座においてこれを担当している。「学部間共通総合講座運用内規」及び「2016年度学部間共通総合講座について」において、コーディネーター、講座担当者及び講座開講申請について明記している。 共通語学科目と選択体育実技は学部設置科目であるため、各学部の方針に準ずる。				
(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか							
教員の編制方針に沿った教員組織の整備							
	a	◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	学部間共通総合講座は、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うため、「学部間共通総合講座運用内規」に基づいて学外講座担当者を任用しており、整合性がとれている。 共通語学科目と選択体育実技は、学部設置科目のため、各学部によって異なる。				
教員組織を検証する仕組みの整備							
	b	●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	学部間共通総合講座は、新規の学外講座担当者の任用審査については、コーディネーター所属学部教授会での審議を経て、学部間共通科目運営委員会及び教務部委員会に報告している。 共通語学科目と選択体育実技は、学部設置科目のため、各学部によって異なる。 このことについて、例年6月開催の委員会において、内規及び次年度の開講申請に係る案内文書（案）を提示し、検証した上で承認している。				
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか							
	a	●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	該当なし。				

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「改善を要する点」に対する発展計画		
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述	
（１）総合講座等に学習成果を明示しているか							
	a	◎修得しておくべき学習成果等を明確にしているか。 【約８００字】	修得すべき学習成果は、各科目ごとに、「学部間共通総合講座シラバス」に明記している。共通語学科目は、「各学部シラバス」に明記し、選択体育実技は「選択体育実技パンフレット」に明記している。				
（２）総合講座等の教育課程の編成・実施方針を明示しているか。							
	a	◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること。 【約６００字】	本学の教育目標である「国際的に通用する多彩な個性と、自由と自治の精神を有する人材を養成する」ために、学部間共通の科目として、以下のような科目群を編成し、「学部間共通総合講座シラバス」に明記している。 学生の学問的視野を広げて問題発見能力や判断力を養うために「学部間共通総合講座」を設置している。この科目群には、初年次教育に資するための「図書館活用法」等の科目、キャリア形成支援科目としての「キャリア形成支援講座」等の科目、問題解決能力を養うために実習や協同学習を重視した「シェイクスピアの現代的魅力」等の科目を開講している。				
（３）学習成果や教育課程の編成・実施方針が、大学構成員に周知され、社会に公表されているか							
	a	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、周知・公表していること。 【約１５０字】	シラバス、ホームページ等により、教職員・学生・受験生を含む社会一般に対して周知している。				
（４）学習成果や教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか							
	a	●学習成果や、教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約４００字】	2016年度第１回目の委員会(2016年６月17日)において検証を行った。				

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 総合講座等を授業科目を体系的に編成しているか							
必要な授業科目の開設状況							
a	◎C Pに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	学部間共通総合講座は、駿河台キャンパスにおいて36コマ、和泉キャンパスにおいて21コマ、生田キャンパスにおいて10コマ（うち黒川農場1コマ）、中野キャンパスにおいて6コマ、その他2コマの計75コマを開講（履修者総数：5,705人）した。 選択体育実技は、駿河台キャンパスにおいて20コマ、和泉キャンパスにおいて61コマ、生田キャンパスにおいて10コマ、中野キャンパスにおいて12コマ、学外集中授業8コマの計111コマを開講（履修者総数：2,584人）した。和泉キャンパスにおいては文系6学部の設置科目を当該6学部の学生に提供し、駿河台キャンパスにおいては法、政治経済、文及び情報コミュニケーション学部の学生に提供している。また、生田キャンパスにおいては、理工学部・農学部の設置科目をそれぞれ両学部の学生に提供しており、中野キャンパスにおいては、国際日本学部の設置科目を総合数理学部へ提供している。					
b	◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること 【200字～400字程度】	学部間共通総合講座は、科目は7つの体系に分類して、開講している。（①初年次教育・リベラルアーツ講座、②キャリア教育講座、③国際社会講座、④時事講座、⑤ビジネス・専門実務講座、⑥明治大学講座、⑦実習・実技・実践講座）。					
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性							
d	●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	「学部間共通科目」の検証については、教務部委員会の下に置かれる「学部間共通科目運営委員会」が責任主体となり、学部間共通総合講座の他、共通語学科目、体育実技科目の学部間相互乗入れ等の共通科目について検証を行っている。改善点として、学部間共通総合講座において、増加傾向にある講座数の見直しを行うため、2014年度から、開講講座について、講師の担当授業回数及び開講年数の上限を設ける等の策定方針を改めた。また、2015年度から「出講カード」を導入し、外部講師の出講状況を確認するための制度を明確化した。2016年度は計3回委員会を開催した。					
(2) 総合講座等は相応しい教育を提供しているか							
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか）							
a	◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	学部間共通総合講座は、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を超えた学際的授業を提供することにより、学生の学問的視野を広げ、問題発見能力や判断力を養うものである。各々の講座は、各分野で活躍するゲストを招き、現代社会で話題となっている事柄、最先端の時事的なニュース等をテーマに取り上げている。この講座を履修することにより、知的好奇心が刺激され、自分が学んでいることの意義と目標を再認識し、学習意欲を喚起することができる。					

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「改善を要する点」に対する発展計画		
		C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	当年度・次年度対応 F列にあれば記述
(1) 総合講座等の教育方法及び学習方法は適切か							
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性							
a	◎当該付属機関の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	学部間共通総合講座の目的は「学部間共通総合講座運用内規」及び「2016年度学部間共通総合講座について」において、学生の学問的視野を広げ、問題発見能力や判断力を養うため、学部や文理の枠を越えた学際的授業を提供すること、と明記しており、その目的、目標を達成する為にコーディネーターを配置し、外部講師を招聘したオムニバス形式の授業を行っている。					
b	●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】	学部間共通総合講座は「学部間共通総合講座運用内規」及び「2016年度学部間共通総合講座について」に基づき、コーディネーターの業務を規定するなど、適切な教育方法を取っている。					
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫							
c	◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。 【約200字】	該当なし。					
d	●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】	該当なし。					
学生の主体的参加を促す授業方法（特徴的な科目について履修者数、科目内容を説明、評価してください）							
e	●学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）を行っているか。 【なし～800字】	学部間共通総合講座の教育方法は、本学教員に加え、広く学外からその分野の専門家を講師として招聘し、一講座に対して複数の教員によるオムニバス形式で講義を実施している。 また、講義科目のほか、6団体から選んだボランティア先で実習を行う「ボランティア入門講座」（履修者春学期27名・秋学期31名）や「学部間共通農場実習入門」（履修者14名）等の実習科目も開講した。					

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか							
	a	●シラバスと授業方法・内容は整合しているか（整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握）。 【約400字】	シラバスは執筆要領等に基づき、全ての科目において、全ての項目について記述しており、可能な限り授業改善アンケートを行っている。				
	b	●シラバスと授業方法・内容は整合しているか（整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握）。 【約400字】	シラバスは執筆要領等に基づき、全ての科目において、全ての項目について記述しており、可能な限り授業改善アンケートを行っている。				
	c	●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	シラバスは執筆要領等に基づき、全ての科目において、全ての項目について記述しており、可能な限り授業改善アンケートを行っている。また、11月開催の学部間共通科目運営委員会では、シラバスのベースとなる次年度学部間共通総合講座開講申請書及び講師略歴書を回覧し、授業の適格性を確認し、その後修正があれば1月開催の同委員会において報告した上で、授業内容について最終的な審議を行っている。				
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか							
	a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。（成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、（研究科）修士・博士学位請求論文の審査体制） 【約400字】	シラバスのベースとなる学部間共通総合講座開講申請書には「授業の概要・到達目標、授業内容、成績評価の方法など」を記載しており、その他設定単位の適切性を確認するため「実験、実習及び実技」の授業については実施時間数を記入させ、確認している。				
	b	◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】	該当なし。				

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか							
	a	◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	学部間共通科目運営委員会において、履修者の一覧及び経年の変化などを報告し、改善に向けて検証している。				
	b	●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	授業改善アンケートの実施を推奨しており、アンケート結果はコーディネーターが受け取っている。				
	c	●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	学部間共通総合講座について寄せられた要望又は課題は学部間共通科目運営委員会又は委員である正副教務部長において共有し、必要に応じて改善している。				

2016年度 学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画	
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a	◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	2016年度第1回目の委員会（2016年6月17日、審議事項3）において、自己点検・評価結果を承認している。				
(2) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a	●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫	学部間共通科目運営委員会の自己点検・評価は、各学部の教授会から推薦された専任教員各1名、教務部委員会が必要と認めた授業科目を担当する専任教員若干名の合計15名で構成され、委員長は教務部長が務めている。年度第1回目の委員会（2016年6月17日、審議事項3）において、前年度の自己点検・評価報告書を確認し、検証しており、2014年度に講座開講数の見直しを行ったこともあり、増加傾向にあった講座が、順調に減少していることも確認できた。				
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a	●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 ＜参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する＞ ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	学部間共通科目運営委員会の自己点検・評価は、各学部の教授会から推薦された専任教員各1名、教務部委員会が必要と認めた授業科目を担当する専任教員若干名の合計15名で構成され、委員長は教務部長が務めている。年度第1回目の委員会（2016年6月17日、審議事項3）において、前年度の自己点検・評価報告書を確認し、検証しており、2014年度に講座開講数の見直しを行ったこともあり、増加傾向にあった講座が、順調に減少していることも確認できた。				